



## 森の構成

	常緑樹	落葉樹
広葉樹	常緑広葉樹	落葉広葉樹
針葉樹	常緑針葉樹	落葉針葉樹
自然林（天然林）	—	人工林
国有林	—	民有林 — 公有林

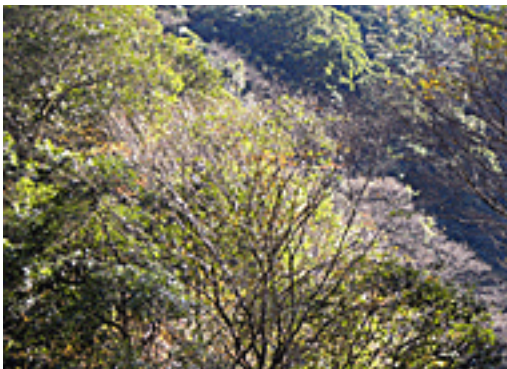
## 照葉樹とは

照葉樹とは常緑広葉樹のことで、秋、冬に落葉せず、葉が光を反射して光るので照葉樹と言われます。東アジアの暖温帯に生育し、ヒマラヤ南部からミャンマー北部、中国雲南省、長江下流域を経て日本まで分布しています。

日本では南九州が最も多く、今では岩手県、秋田県でも見ることができます。

## 綾の照葉樹林とは

今では農地への変換などにより照葉樹林は極端に減少していると言います。日本でもかつての開発や人工林への変換でまとまった照葉樹林は少なくなりました。その中であって、綾の照葉樹林はまとまって約2000ヘクタールあり、日本最大面積の照葉樹林です。中心部には原生的な照葉樹林帯があり、森林生態系保護地域に指定されています。



綾の森ではシイ、カシ、イスノキ、タブノキ、クスノキ、など20種を超える高木が見られ、植物は800種を超えていると言われています。この森の中では多くの生物が生息し、特に、国の天然記念物に指定されているニホンカモシカ、国内希少野生動物種、絶滅危惧類に指定されているクマタカが生息していて、森の生態系の豊かさを示しています。

2005年に発足した官民共同の組織「綾の照葉樹林プロジェクト」は大森岳（1,108m）を中心に約1万ヘクタールを対象エリアに人工林を減らしながら照葉樹林を保護、復元していく計画を進めています。

日本一の綾の照葉樹林も過去には幾多の伐採の危機がありました。そのたびに先人たちの森を守る意思と行動があったことを忘れないようにしなければならないと思います。

## 綾南林道について

綾の役場から綾南川渓谷沿いの県道26号を遡ること約20キロ、小林市須木に入り、綾南川と多古羅川が合流するところから多古羅川沿いに綾南林道があります。約15キロの行き止まりの林道です。

多古羅川は大森岳の西側の急斜面下にあつて山や渓谷が陰しく昔は秘境と言われたところだったようです。昭和のはじめ頃から山に人が入るようになり、とくに戦後の1952年（昭27）には拡大造林計画（自然林伐採と人口造林）に沿った国の事業で多くの人が入山し、定住するようになったそうです。その頃、須木小学校綾南分校も林道の奥地にできています。林道も事業の進捗につれて整備され当時は軌道車（トロッコ）で木材や人を運んだと言います。その後、林道はトラックが利用されるようになって現在のような林道になったようです。

1968年（昭43）、多古羅川沿いでは国の事業が縮小されたことによって人が減り綾南分校も閉鎖されました。綾南林道を歩くと事業が盛んだった頃の形跡をよく見かけます。

## 多古羅川周辺の自然について

綾南林道は多古羅川に沿って通じています。多古羅川周辺は照葉樹はほとんど伐採され人工林に変わっているところが多いので照葉樹の森を見ることはあまりできませんが、多古羅川沿いは落葉樹が多く見られ、そのため、綾の照葉樹林の中では他と違って四季の変化と彩りが見られる場所になっています。植物だけでなく綾南林道ではいろいろな生物も多く、クマタカやコシジロヤマドリ、アナグマなど珍しい生物のほか、さまざまな生物に出会うことがあります。植物が多様で豊かな自然が形成されている証と言えるでしょう。綾の照葉樹林プロジェクトでは多古羅川流域を森林環境教育資源区域としています。

周囲をよく観察しながら歩きましょう  
周囲の地形や森の変化を見ましょう  
道路わきの岩石の変化を見ましょう  
渓谷の植物、道路わきの植物の違いを見ましょう  
（葉の色、幹の肌、木の高さ、枝振りなど）  
五感を働かせて生物を探しましょう  
人工物や人の住んだ形跡を探しましょう